

赤れんが

道立文書館は
開館40周年



もんじょかん
北海道立文書館報 No.60
2025(令和7)年4月

企画展における原本資料展示の試み

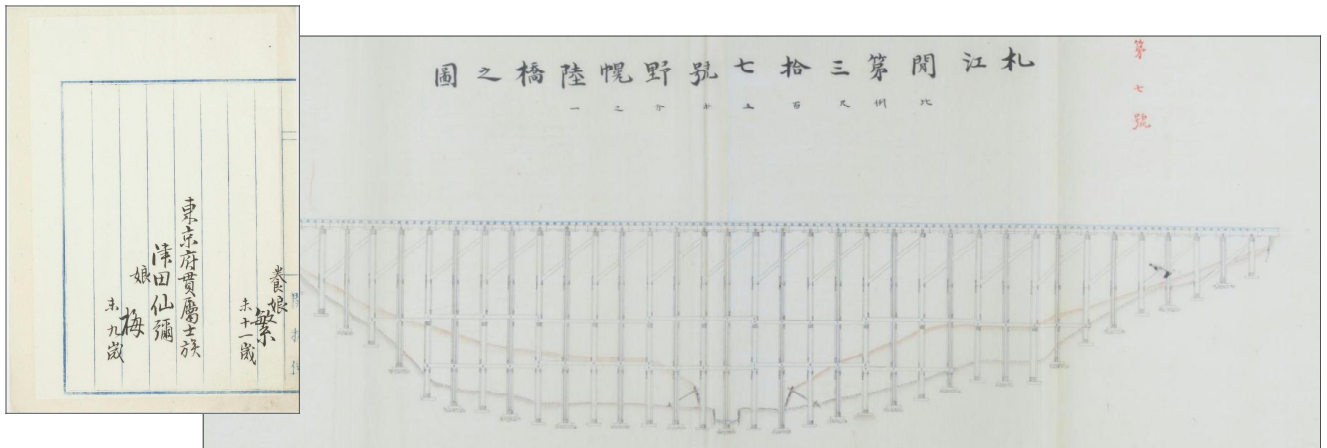
道立文書館では、箱館奉行所文書と開拓使文書、2件の国指定重要文化財(重文)を管理しています。

これらの資料は重文ではありますが、原本の閲覧利用をしていただけます。これまでもそのことを企画展やSNSを通じてPRしてきましたが、自力で興味ある資料を検索し、原本を閲覧利用できる方はまだ少数派です。

そこで、多くの方に資料原本の魅力を知っていただくため、重文などの原本展示を行いました。

当館の展示コーナーは廊下部分にあって、重文を展示するのに適した環境とは言えないため、開催にあたっては閲覧室内に臨時の場所を設けました。

[道民の日記念「道民のお宝あります」][^{ぼしよ}「簿書」]が語る人・地域の歴史～身近にある文化財に親しもう～の2回にわたり、2つのテーマで、重文を含む「簿書」と呼ばれる資料群の中から3点の原本を展示しました。そのうち2点を紹介します。



閲覧室の模様替え

3月上旬の蔵書点検期間を利用し、閲覧室の模様替えを行いました。

大型の地図を閲覧する際に机が狭く困るケースが続いたことから、机4台を2台ずつつなげて、広げるための場所を確保しました。席が減ってしまった分は、個人用の机を2台増設してカバーしています。

また、検索用の端末を一つの机にまとめて設置し、マイクロリーダー周りもコンパクトにまとめて、空いた空間に目録用の書棚と雑誌架を設置しました。さらに、一

(1)新五千円札の「顔」津田梅子

1871年(明治4年)10月に、黒田清隆開拓次官が太政官正院に対し、津田梅子など女子留学生のアメリカへの派遣承認を求めた文書(簿書5707-一件番号53)。

津田梅子は日本初の女子留学生5名の内の1人だということは広く知られていますが、彼女たちを派遣したのは開拓使だったことはあまり知られていません。その間の事情がわかる開拓使文書のうちの1点です。

(2)幌内鉄道野幌陸橋(岡橋)

開拓使が敷設した「幌内鉄道」の関係図面のうち、野幌陸橋の図(簿書番外4-一件番号7(10))。

陸橋は、長さは300尺(≒90.9m)で、やぐらのような橋脚で橋桁を支えるトレススル橋と呼ばれる形式が採用されました。

陸橋の位置は、当時の写真や野幌駅設置要望に関する1885年(明治18年)の文書(簿書9337所収)などから、現在のJR函館本線大麻駅の少し札幌側、大麻西公園の東南端辺りと推定されます。

部の開架資料を入れ替え、アーカイブズ関係の書籍を増やしました。

ほか、4月にはマイクロリーダー関係の機器を更新し、印刷する際の動作の遅さが改善されました。

模様替えをした閲覧室を見に、ぜひ文書館へお越しください。

なお、閲覧室のレイアウトについて「使いやすくなった」「こうしてほしい」などご意見などありましたら、今後の参考としますので、お気軽にカウンターにお声がけ下さい。

(専門主任 正木 公一)

所蔵資料紹介

第七師団輜重兵第七大隊准士官以下勲績明細書
第三軍 明治三十七八年戦役勲績書類 乙之部
共九号ノ内三

だいしちしだん

第七師団は、ロシアの脅威から日本を守るため、屯田兵を母体に1896年(明治29年)に編成された大日本帝国陸軍の部隊で、北海道に本拠地を置いていました。

映画「二百三高地」⁽¹⁾に登場したほか、最近ではアニメ化、実写化もされた漫画「ゴールデンカムイ」⁽²⁾にも登場し、若い年代にも知られるようになりました。

この資料は、第七師団の^{しちようへい}輜重兵のうち「准士官以下」である輜重兵上等兵や輜重輸卒などに対し、輜重兵大尉や糧食縦列長が勲功を認めた功績確認書、勲績明細書を綴ったものです。

輜重兵とは、第一線の兵士が戦い続けるために、食料や弾薬等の大量の物資を運び兵員で、重要で危険な任務であったと思われます。本資料の範囲内では、輜重兵は北海道を本籍地とする者が多いですが、輜重輸卒は福島県を中心に東北など他県を本籍地とする者が多い傾向が見られます。

「明治三十七八年戦役」とは、日露戦争(明治37～38年)のことで、その中でも旅順攻囲戦に関するものが多いようです。

1904年(明治37年)11月、旅順⁽³⁾攻略のため、旅順港を一望する203高地をロシアから奪い占領することを目標とした激しい戦いが繰り広げられ、第七師団も第三軍として第一師団とともに参戦しています。

資料の一部を紹介します(写真)。

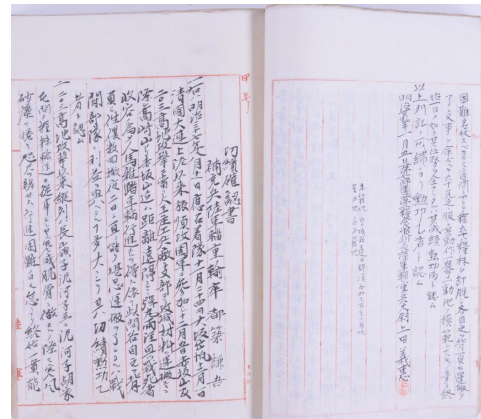
一 右ハ明治三十七年八月十一日應召着隊、十一月二十四日大坂出帆、十二月一日清國大連上陸以来旅順攻圍(囿)軍ニ参加シ、十二月五日赤坂山及二〇三高地攻撃ニ當リ大王庄工兵廠支那ヨリ攻城材料ヲ運搬スルニ際シ、高崎山ヨリ赤坂山迄(まで)ハ距離遠隔ニシテ彈丸雨注且ツ戦死者収容ノ為メ人馬雜踏車輛行進スルヲ得ス。依テ此間各自之ヲ背負ヒ往復數回徹夜二日ニ亘リ、能ク堪忍運搬ヲ了シタルハ戰鬪部隊ニ利益ヲ與(与)ヘタル(事)⁽⁴⁾多(多)大ニシテ其功績勲功乙者ト認ム。

攻城材料を運搬するに際し、戦死者収容のため人馬が雑踏して車両が行進できないため、各自これを背負って何度も往復、徹夜2日にわたり運搬とあります。戦争の悲惨な状況がうかがえる貴重な資料となっています。

こちらの資料は、寄贈者は当初他館に相談されて

いましたが、北海道に縁のある「第七師団」に関する資料ということで、最終的に当館に寄贈されることになりました。「九号の内の三」とあるので他にも関連する資料があったと思われますが、寄贈者がお持ちだったのはこの1冊のみでした。

貴重な資料を当館のような広く公開することができる施設に寄贈いただくことは大変ありがたいことだと思います。興味のある方は、ぜひ文書館までお越し下さい。



注1:1980年舛田利雄監督。

注2:野田サトルによる漫画。週刊ヤングジャンプに掲載されていた。

注3:旅順は現在の中華人民共和国遼寧省大連市。当時は清国で「旅順・大連租借に関する露清条約」(1898年)によるロシア帝国の租借地であった。

注4:「ㄗ」は「事」の略字。

(専門主任 本間 佳名子)

松浦武四郎『知床日誌』に見る動物

～アザラシについて～

松浦武四郎は、一般の人々に蝦夷地の様子を知ってもらうため、多数の本を出版しています。それらには、読者の興味をかきたてるため、武四郎一行の様子や風景、動植物などの挿絵が掲載されています。

そんな本の一つ『知床日誌』(以下『日誌』)には、アザラシの挿絵が掲載されています。近世の蝦夷地で武四郎が見たアザラシについて、『日誌』から少し詳しく見てみたいと思います。

アザラシはアイヌ語で「ツーカーリ」「トカリ」等と呼ばれ、その毛皮はラッコ皮・熊皮・熊胆・狐皮・鷲羽等とともに「^{かるもの}軽物」と称されました。軽物とは、松前藩や幕府がアイヌから独占的に買上げた産物です。

『日誌』には、「其品多しといへどもシトカラ鼈甲皮を以て第一とし、第二ルヲハ、第三アムシバ、第四ホキリまたヤイツカリと云、第五ハカトロマウシ又ハケレと云又レタレ



と云。(後略)」とアイヌ語でアザラシの種類とそれぞれの毛皮の品質について順位が記されています。

アイヌ語の辞典によると、シトカラとはアゴヒゲアザラシ、ルヲ、とはクラカケアザラシ、アムシベとはアゴヒゲアザラシの子供、ホキリとはゴマフアザラシ、ハカトロマウシは白色のアザラシという意味でゴマフアザラシの類を指すようです。

当時のアザラシの産地は、「^{ネモロ}根諸 ^{アツケン}厚消 ^{クスリ}久摺辺の品よろし。^{シヤリ}舍利是に次とも品多し。ソウヤまた是に次(後略)」とあるように、根室・厚岸・釧路など道東地域、斜里などオホーツク方面、宗谷など道北地域だったようです。

現在でも、ゼニガタアザラシは襟裳岬までの道東沿岸、クラカケアザラシはオホーツク海の北海道側に生息しているとのこと。

(文書専門員 石川 淳)

研修会参加記

国立公文書館令和6年度アーカイブズ研修Ⅱ

2025年2月6日(木)・7日(金)にオンラインで開催された標記研修に参加しました。テーマは昨年度と同じく「電子公文書の管理・保存・利用」でした。

1日目は、午前には坂口貴弘氏及び塩崎亮氏による講義があり、午後は広島県立文書館と札幌市公文書館から事例報告がありました。また、国立公文書館から「電子公文書の作成・保存・利用ガイドブック」の概要説明がありました(現在同館ホームページ上で公開されています。)

2日目は5年ぶりとなる受講者によるグループ討論と報告が実施されました。筆者が所属したグループでは、電子公文書の適切な移管・保存を実現するための論点整理と課題設定、解決の報告という順番で討議が進められ、解決の方向性をまとめて、参加者全体への報告をしました。

討論された課題は、電子公文書の見読性、メタデータの移管・保存、データ容量・フォーマット変更による

真正性の維持、常用文書の対応等の問題の4点です。

電子文書の移管や長期保存については予見できない部分が多いということを前提として討論を行い、公文書館と現用文書の管理部門が緊密に連携を取り、現用段階から移管後の長期保存を見据えて、文書が作成・保存される仕組みを作る必要があるという結論に達しました。

受講者は国・都道府県・市町村などから参加しており、各グループから勤務する職場の実態を踏まえた解決策が報告されました。様々な立場からの電子公文書の管理・保存についての知見は、当館での課題解決の参考となる有意義な研修でした。

(文書専門員 石川 淳)

第50回全国歴史資料保存利用機関連絡協議会(全史料協) 全国(仙台)大会・研修会

2024年11月21日(木)・22日(金)の2日間に渡り、「広がる市町村アーカイブズの多様なカタチ」というテーマで、仙台市との共催で開催されました。2023年はリアル+リモートのハイブリッド開催でしたが、今大会は5年ぶりの全面的リアル開催でした。

初日午前中は施設視察で、筆者は宮城県公文書館及び仙台市公文書館のコースに参加しました。両館の職員の方の丁寧な説明を聞きながら見学できたことや、一緒に回った方からの質問で自分では思いつかなかった視点のものがあつたことなど、リアル開催のメリットを大いに感じました。

佐藤大介氏(東北大学災害科学国際研究所)「宮城での史料レスキュー・21年の軌跡——一人の当事者が見た現状とこれから——」は、おそらく仙台で大会を開催することになった時点で予定されていたものと思われるかもしれませんが、石川県能登半島地震と奥能登豪雨が起きてしまった年の研修として、特別報告「石川県能登半島地震による被災への対応と救済活動」とともに真に時宜を得たものであつたと思います。

2日目の大会テーマ基調報告及び研究会では、大仙市を始め東北地方全般の動向、酒田市及び仙台市における体制整備について紹介されました。これから文書館ないしその機能を整備しようとする自治体にとって参考になるだけでなく、既存館でも見直すべき点がないかどうか考えるきっかけになったことと思われます。

全史料協の会報に詳細な報告が掲載されるのが恒例なので、ここでは筆者の感想のみ記しました。なお、同誌は当館で閲覧することができます。

(主任文書専門員 山田 正)

令和6年度行事開催結果報告

▶企画展示

[文書館所蔵資料展]

●北海道とその文書

会期 2024年4月2日(火)～7月30日(火)

●樺太庁とその文書

会期 2024年8月1日(木)～11月28日(木)

●文書館資料に見る松浦武四郎

会期 2025年3月7日(金)～6月29日(日)

[道立図書館北方資料室・道立文書館連携展示 しばれる北海道 ～冬をのりきる～]

会期 2024年12月1日(日)～2025年2月27日(木)

場所 図書館2階北方資料室展示コーナー、文書館展示コーナー

[道政広報コーナーパネル展]

会期 2024年11月13日(水)・14日(木)

場所 道庁本庁舎1階道政広報コーナー

[道みんなの日記念「道民のお宝あります」]

会期 2024年7月13日(土)～21日(日)

[「簿書ぼしよ」が語る人・地域の歴史～身近にある文化財に親しもう～]

会期 2024年10月29日(火)～11月7日(木)

▶古文書解読講座

道立図書館の工事による一時閉館で、同館の研修室が使用できなかったため、江別市郷土資料館の協力を得て、共催により野幌公民館研修室を会場として実施しました。

入門を6月15日(土)、初級は8月31日(土)、中級は

11月9日(土)に開催し、参加者はそれぞれ54名・33名・21名でした。

▶古文書教室

8月24日(土)に伊達市で、10月12日(土)に七飯町で、市・町との共催により実施しました。参加者はそれぞれ31名・20名でした。

▶文書等保存利用研修会

8月29日(木)に「文書館をどのように利用するか、何がわかるか～利用者の視点から」というテーマで、江別市大麻公民館で開催しました。

麓慎一氏(佛教大学歴史学部教授)に、「世界のなかの北海道史－19世紀後半における国際関係の変容と北海道」と題して、当館を含む国内外の文書館を利用した研究を基に講演をしていただきました。

令和7年度開催予定行事

▶古文書解読講座

入門 6月15日(日)

初級 8月3日(日)

中級 11月9日(日)・16日(日)(全2回)

会場 図書館研修室

▶古文書教室

留萌市(10月4日(土))と本別町(10月25日(土))で開催します。

▶文書等保存利用研修会

9月30日(火)に開催します。場所、内容は別途お知らせします。

そのほか、文書館展示コーナー、道庁本庁舎1階道政広報コーナーでの企画展示も予定しています。詳細はホームページ等でお知らせします。

北海道立文書館

〒069-0834 江別市文京台東町41番地1

電話 011-388-3001・3002 FAX 011-386-6787

■Eメール somu.monjyo1@pref.hokkaido.lg.jp

■U R L <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/sm/mnj/>

■S N S ◎フェイスブック @archivesofhokkaido

◎X(旧ツイッター)@HKD_Archives

■交 通 ◎JR:函館本線大麻駅南口から徒歩9分

◎バス:大麻駅南口(JR北海道バス・夕鉄バス)から徒歩9分 教育研究所前(JR北海道バス)から徒歩1分

◎駐車場:文書館前5台、図書館前35台(連絡通路あり)

■開館時間 9時から17時まで ※6～8月の毎週木・金曜日(月末休館日を除く。)は19時まで

■休館日 月曜日(月曜日が国民の祝日の場合、その直後の平日)、年末年始(12月29日～翌年1月3日) 毎月末日(休日、月曜日、土曜日及び日曜日の場合は、その直前の平日。12月は26日) 蔵書点検期間(年1回、10日間程度。期間についてはホームページ等でお知らせします。)

